



平成 17 年 6 月期 決算短信 (非連結)

平成 17 年 8 月 11 日

会社名 株式会社旅籠屋
 コード番号 4807
 本社所在地 東京都台東区寿3丁目3番4号
 問い合わせ先 責任者役職名 代表取締役社長
 氏名 甲斐 真

グリーンシート銘柄
 本社所在都道府県 東京都

TEL (03) 3847 - 8858 無
 中間配当制度の有無 無

1. 平成 17 年 6 月期の業績 (平成 16 年 7 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日)

(注) 1. 本決算短信の数値は、税効果会計の適用等、所要の会計上の修正を行っていません。
 2. 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(1) 経営成績

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年6月期	263	(28.7)	15	(251.5)	9	(1062.2)
16年6月期	204	(12.3)	4	(-)	0	(-)

	当期純利益		1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益		株主資本 当期純利益率		総資本 経常利益率		売上高 経常利益率	
	百万円	%	円	銭	円	銭	%	%	%	%		
17年6月期	7	(-)	1,262	89	1,146	41	4.7	2.3	3.7			
16年6月期	1	(-)	208	65	-	-	0.8	0.2	0.4			

(注) 1. 期中平均株式数 17年6月期 5,620株 16年6月期 5,620株
 2. 会計処理の方法の変更 無
 3. 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前年同期増減率

(2) 財政状態

	総資産		株主資本		株主資本比率		1株当たり株主資本	
	百万円		百万円		%	円	銭	
17年6月期	421		154		36.6	27,465	81	
16年6月期	419		147		35.1	26,202	92	

(注) 期末発行済株式数 17年6月期 5,620株 16年6月期 5,620株

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー		投資活動による キャッシュ・フロー		財務活動による キャッシュ・フロー		現金及び現金同等物 期末残高	
	百万円		百万円		百万円		百万円	
17年6月期	33		13		11		17	
16年6月期	17		21		1		9	

2. 平成 18 年 6 月期の業績予想 (平成 17 年 7 月 1 日 ~ 平成 18 年 6 月 30 日)

中間 通期	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり年間配当金					
				中間		期末			
				円	銭	円	銭	円	銭
	百万円	百万円	百万円						
	152	23	22	-	-	-	-	-	-
	301	13	10	-	-	0	0	0	0

(参考) 1株当たり予想当期純利益 (通期) 1,903円91銭
 上記に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

3. コーポレート・ガバナンスに関する基本的考え方及びその施策の実施状況

当社は、公正かつ効率的な経営に取り組むにあたり、コーポレート・ガバナンスが重要な課題であると認識しております。そのため、経営の意思決定の内容及び過程を明確にし、利害関係者の意思や利益を適切に反映し株主から信頼される経営を目指しております。

当社の取締役は、平成 17 年 6 月末現在 3 名で構成し、商法で定められた取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務遂行の状況を逐次監督しております。

また、情報開示体制については、監査法人の指導を、随時受けながら、経営情報の迅速な開示を目的として、株主及び投資家に対して決算デ - タ等の情報開示に努めております。

第 11 期 決算速報

(平成 16 年 7 月 1 日から平成 17 年 6 月 30 日まで)



平成 17 年 8 月 11 日

株式会社 旅籠屋

会社名 (定款上の商号)	株式会社 旅籠屋
英文名 (英文商号)	Hatagoya & Company
コード番号	4807
代表者の役職氏名	代表取締役社長 甲斐 真
本店の所在の場所	東京都台東区寿 3 丁目 3 番 4 号
電話番号	03-3847-8858
連絡者	代表取締役社長 甲斐 真

四半期の業績

(1) 損益計算書 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	前年度 第4四半期 H16.4.1～ H16.6.30	当年度 第1四半期 H16.7.1～ H16.9.30	当年度 第2四半期 H16.10.1～ H16.12.31	当年度 第3四半期 H17.1.1～ H17.3.31	当年度 第4四半期 H17.4.1～ H17.6.30	当年度 累計 H16.7.1～ H17.6.30	前年度比	前年度 同期累計 H15.7.1～ H16.6.30
営業収益									
売上高		45,599	88,860	55,705	52,532	66,668	263,767	+28.7%	204,913
営業費用									
売上原価		45,798	54,637	48,756	47,982	52,103	203,480	+24.2%	163,821
販売費及び一般管理費		9,098	10,258	11,043	10,306	12,763	44,372	+21.4%	36,563
営業利益または営業損失()		9,297	23,965	4,094	5,756	1,801	15,915	+251.5%	4,528
営業外収益		88	136	100	70	84	392	85.6%	2,727
営業外費用		1,413	1,535	1,453	2,063	1,434	6,487	0.2%	6,476
経常利益または経常損失()		10,621	22,566	5,447	7,750	451	9,820	+1062.2%	778
特別利益		-	-	-	-	-	-	-	-
特別損失		4	-	-	-	-	-	-	889
税引前四半期(当期)純利益または純損失()		10,617	22,566	5,447	7,750	451	9,820	(-)	110
法人税、住民税及び事業税		531	265	265	265	1,926	2,722	+156.3%	1,062
四半期(当期)純利益または純損失()		11,148	22,300	5,712	8,015	1,474	7,097	(-)	1,172
前四半期(前期)繰越損失()		141,790	152,939	130,639	136,351	144,367	152,939	(-)	151,766
四半期(当期)未処理損失()		152,939	130,639	136,351	144,367	145,842	145,842	(-)	152,939
期中平均株式数		5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	-	5,620株
1株当たり四半期(当期)純利益または純損失()		1,983円	3,968円	1,016円	1,426円	262円	1,262円	(-)	208円
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益(注1)		-	3,697円	-	-	-	1,146円	-	-

(注1) 前年度第4四半期および当年度第2四半期から第4四半期は、最終損益が損失となるため記載を省略しております。

(2) 部門別内訳 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

部門	期別	前年度 第4四半期 H16.4.1～ H16.6.30	当年度 第1四半期 H16.7.1～ H16.9.30	当年度 第2四半期 H16.10.1～ H16.12.31	当年度 第3四半期 H17.1.1～ H17.3.31	当年度 第4四半期 H17.4.1～ H17.6.30	当年度 累計 H16.7.1～ H17.6.30	前年度比	前年度 同期累計 H15.7.1～ H16.6.30
本社(注1)	売上高	329	457	2,495	358	10,805	14,117	+245.8%	4,083
	経常損益	9,197	10,296	9,038	11,195	2,539	33,069	(-)	33,080
鬼怒川店	売上高	7,271	15,232	8,142	7,694	8,281	39,350	+1.2%	38,887
	経常損益	721	5,829	748	863	795	8,236	+0.2%	8,217
	客室稼働率	43.0%	66.7%	49.5%	47.4%	50.1%	53.5%	1.3p	54.8%
那須店	売上高	6,090	11,737	5,990	5,410	6,436	29,575	+1.3%	29,202
	経常損益	362	5,323	518	302	577	6,722	11.9%	7,634
	客室稼働率	64.0%	84.5%	59.3%	51.9%	60.6%	64.2%	0.6p	64.8%
秋田六郷店	売上高	4,724	6,325	3,588	2,748	4,327	16,989	3.6%	17,618
	経常損益	222	1,591	663	1,410	440	923	(-)	229
	客室稼働率	61.2%	66.8%	50.6%	38.1%	51.3%	51.8%	2.8p	54.6%
山中湖店	売上高	8,490	14,561	8,213	7,526	8,059	38,359	3.4%	39,722
	経常損益	1,574	7,298	1,896	1,765	1,569	12,530	0.3%	12,592
	客室稼働率	76.1%	88.8%	64.5%	58.3%	66.3%	69.5%	5.9p	75.4%
沼田店	売上高	6,180	8,770	6,707	7,640	5,938	29,057	2.0%	29,639
	経常損益	264	2,641	1,157	1,787	61	5,524	19.4%	6,853
	客室稼働率	76.4%	85.4%	78.3%	83.4%	72.3%	79.8%	4.2p	84.0%
水戸大洗店	売上高	6,044	10,311	6,099	6,362	6,030	28,804	+3.8%	27,743
	経常損益	339	4,424	828	895	509	6,657	+24.6%	5,341
	客室稼働率	73.4%	85.0%	73.0%	75.7%	71.2%	76.2%	+1.6p	74.6%
北上店	売上高	3,532	6,187	3,881	3,900	5,022	18,991	+25.9%	15,079
	経常損益	1,522	1,287	1,061	904	420	1,099	(-)	4,163
	客室稼働率	38.4%	57.6%	48.8%	49.6%	62.7%	54.7%	+13.8p	40.9%
仙台亘理店	売上高	2,936	6,826	4,707	4,869	5,441	21,844	+644.0%	2,936
	経常損益	1,523	1,335	371	315	352	419	(-)	1,923
	客室稼働率	52.7%	72.5%	62.9%	71.9%	65.2%	68.1%	+15.4p	52.7%
小淵沢店	売上高	-	8,449	5,879	6,021	6,325	26,675	-	-
	経常損益	418	3,131	538	461	814	4,821	(-)	462
	客室稼働率	-	77.7%	74.6%	77.5%	82.5%	78.1%	-	-
全社合計	売上高	45,599	88,860	55,705	52,532	66,668	263,767	+28.7%	204,913
	経常損益	10,621	22,566	5,447	7,750	451	9,820	+1162%	778
	客室稼働率	60.0%	75.7%	61.7%	60.6%	63.8%	65.5%	+2.1p	63.4%

(注1) 「前橋南店」関連の費用を含んでおります。

(3) 貸借対照表 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目		期別	前年度	当年度	当年度	当年度	当年度
			第4四半期末 H16.6.30	第1四半期末 H16.9.30	第2四半期末 H16.12.31	第3四半期末 H17.3.31	第4四半期末 H17.6.30
(資産の部)	流動資産						
	現金預金		9,164	9,754	34,871	33,259	17,371
	その他		6,273	6,689	6,238	6,389	8,210
	流動資産合計		15,437	16,443	41,110	39,649	25,581
	固定資産						
	有形固定資産		382,841	383,890	378,551	373,849	369,490
	無形固定資産		1,828	1,681	1,534	1,387	1,239
	投資その他の資産		19,017	18,900	18,783	18,767	25,216
	固定資産合計		403,687	404,472	398,869	394,003	395,945
資産合計		419,125	420,916	439,980	433,652	421,527	
(負債の部)	流動負債		67,745	47,307	11,235	11,008	59,728
	固定負債		204,119	204,048	264,896	266,811	207,442
	負債合計		271,865	251,355	276,132	277,819	267,170
(資本の部)	資本金		281,000	281,000	281,000	281,000	281,000
	資本剰余金						
	資本準備金		19,200	19,200	19,200	19,200	19,200
	利益剰余金						
	四半期(当期)未処理損失()		152,939	130,639	136,351	144,367	145,842
	資本合計		147,260	169,560	163,848	155,832	154,357
負債資本合計		419,125	420,916	439,980	433,652	421,527	
	発行済株式総数		5,620 株	5,620 株	5,620 株	5,620 株	5,620 株
	1株当たり純資産		26,202 円	30,170 円	29,154 円	27,728 円	27,466 円

(4) 貸借対照表および損益計算書の作成の基本となる事項

四半期の貸借対照表および損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則および手続は、下記事項を除き、正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「会社内容説明書 第5経理の状況 重要な会計方針」をご参照ください。

事業年度の貸借対照表および損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

固定資産の減価償却の方法	各四半期の減価償却費は年間償却見積額の4分の1相当額を計上しています。
経過勘定項目	未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間費用として処理しています。
税金の計上基準	法人税、住民税および事業税の年間見積り額の4分の1相当額を計上しています。
消費税等の会計処理	仮払消費税等および仮受消費税等は、相殺のうえ、差額を流動資産または流動負債として計上しています。

(5) 重要な会計方針

- 固定資産の減価償却の方法
 - 有形固定資産

定額法を採用しています。なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
建物：17～18年、構築物：15～20年、車両運搬具：4～6年、工具器具備品：3～8年
 - 無形固定資産

定額法を採用しています。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しています。
 - 長期前払費用

定額法を採用しています。なお、期間内均等償却によっています。
- リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。
- 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

第11期（平成16年7月1日～平成17年6月30日）の業績の概況

(1) 本社

スタッフの増員やアメリカ視察研修費などにより、前期に比べ費用が大幅に増加（36,563 44,372 千円）しましたが、経常損失はほぼ同額（33,080 33,069 千円）となりました。これは、新規出店に関連する企画費などの売上（2,714 12,585 千円）が急増したことによるものです。

(2) 鬼怒川店

地域全体の観光客減少の影響もあり、前期に比べ、稼働率が減少（54.8 53.5%）しましたが、ビジネス客の減少によって客室単価が上昇したため、売上高（+1.2%）経常利益（+0.2%）は微増となりました。

(3) 那須店

前期に比べ、稼働率（64.8 64.2%）は微減しましたが、ビジネス客の減少による客室単価の上昇により、売上高（+1.3%）は微増となりました。ただし、前期に実施した改築工事による減価償却費の増加などによって、経常利益は減少（7,634 6,722 千円）しました。

(4) 秋田六郷店

通期での黒字転換を目指していましたが、稼働率（54.6 51.8%）売上高（-3.6%）経常損失（229 923 千円）ともに前期を下回りました。近隣におけるビジネスホテル開業の影響が考えられます。

(5) 山中湖店

稼働率（75.4 69.5%）売上高（-3.4%）ともに前期を下回りましたが、経費の節減により、経常利益は微減（-0.3%）にとどまりました。

(6) 沼田店

稼働率（84.0 79.8%）売上高（-2.0%）経常利益（6,853 5,524 千円）ともに前期を下回りました。ただし3期続けて80%前後の稼働率を維持しており、好調を持続しています。

(7) 水戸大洗店

稼働率（74.6 76.2%）売上高（+3.8%）経常利益（+24.6%）ともに前期を上回りました。

(8) 北上店

稼働率（40.9 54.7%）売上高（+25.9%）ともに前年同期を大きく上回り、経常損失も大幅に改善（4,163 1,099 千円）しました。

(9) 仙台亘理店

オープンから1年2ヶ月ですが、稼働率は68.1%と好調でした。ただし、ビジネス利用が多いため客室単価が低く、経常利益はわずかなプラス（419 千円）にとどまりました。

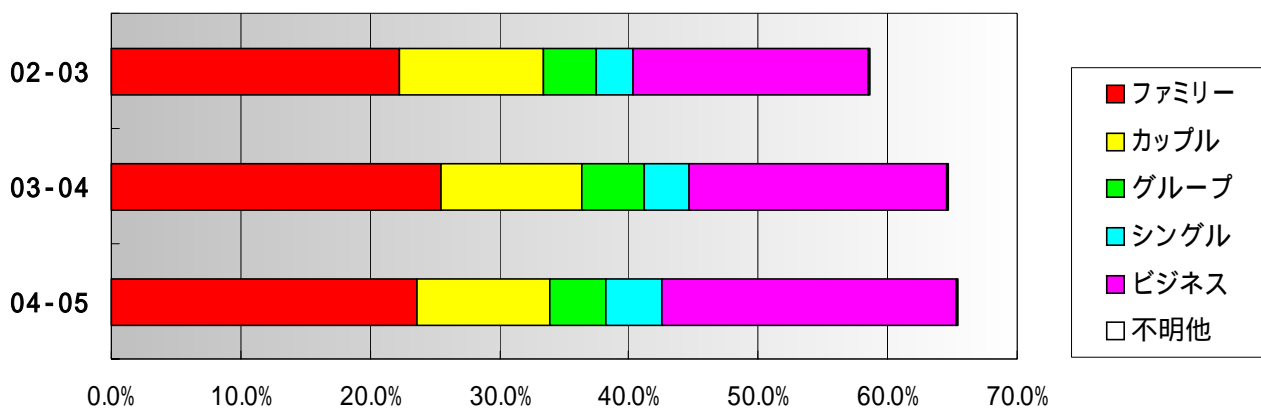
(10) 小淵沢店

オープン初年度ながら、稼働率も高く（78.1%）、大きな経常利益（4,821 千円）を計上できました。

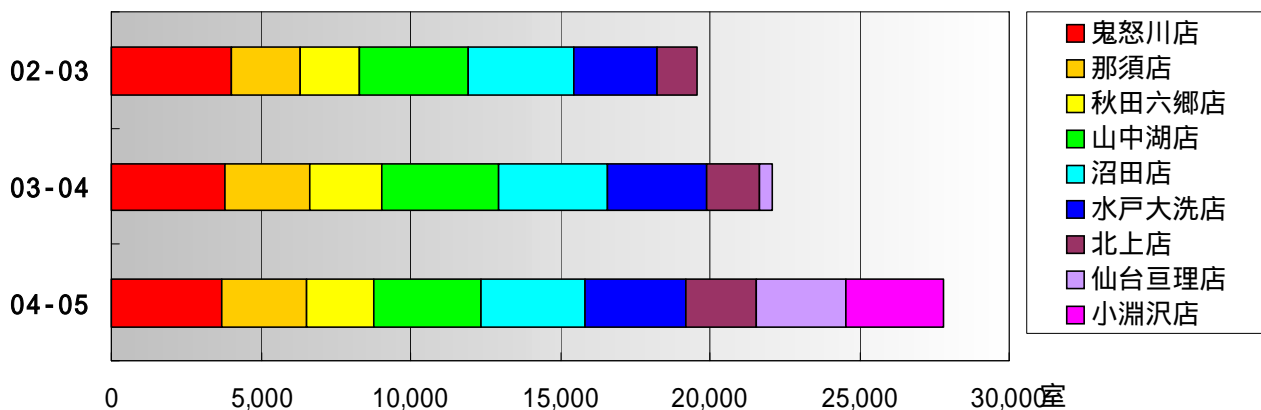
11) 全社

前期に比べ「仙台亘理店」「小淵沢店」が増えたため、売上高（+28.7%）経常利益（778 9,820 千円）ともに大幅に増加しましたが、既存7店についてはそれぞれ微増（売上高+1.6%、経常利益+3.9%）にとどまりました。ただし、今期より外形標準課税（営業費用として全店にそれぞれ125.9 千円の法人事業税）が適用されたため、これを除くと既存7店の経常利益は+6.3%となり、利益率の向上が見られます。この結果、税引前利益も9,820 千円となりましたが、店舗増などによって法人住民税が大幅に増加（1,062 2,722 千円）したため、税引後当期損益は7,097 千円と当初予想を下回る結果となりました。しかしながら、念願であった黒字転換を達成することができました。

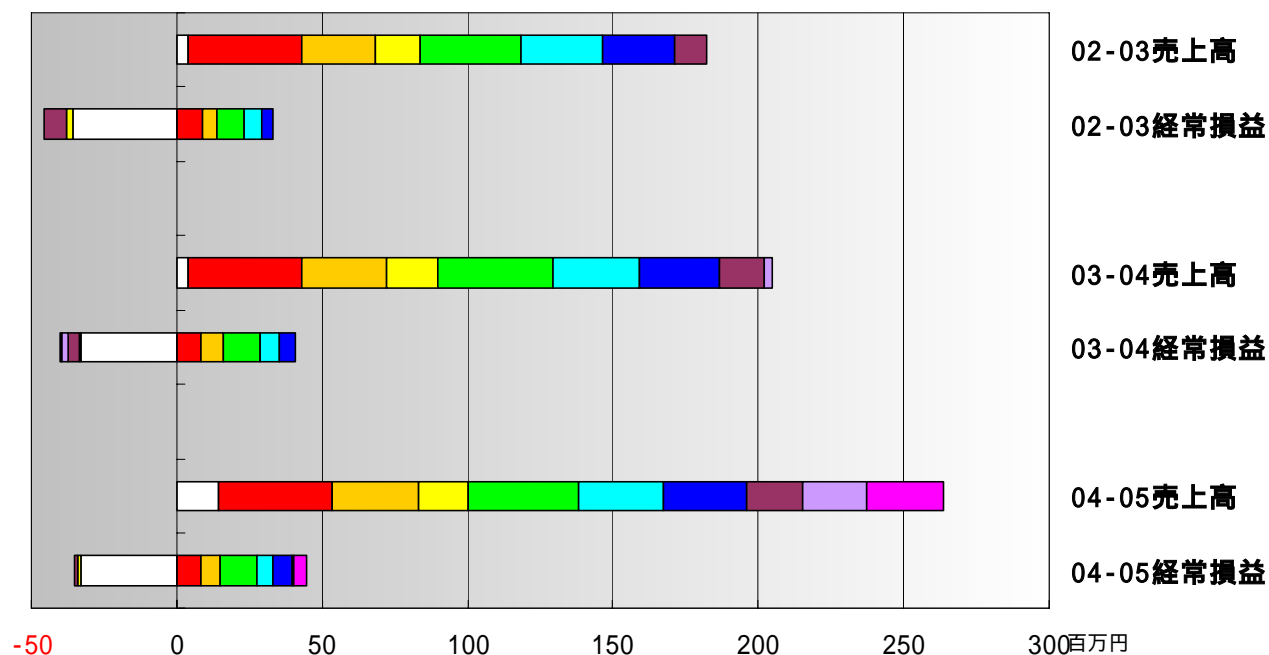
客室稼働率（全店通算、構成内訳）の推移（2004.7/1～2005.6/30）



利用客室数（全店合計、店舗別内訳）の推移（2004.7/1～2005.6/30）



売上高・経常損益（全社合計、部門別内訳）の推移（2004.7/1～2005.6/30）



第12期の売上高および利益の予測について

(単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別 第11期 通期実績 H16.7.1～ H17.6.30	第12期				
		第1四半期 予想 H17.7.1-9.30	第2四半期 予想 H17.10.1-12.31	第3四半期 予想 H18.1.1-3.31	第4四半期 予想 H18.4.1-6.30	通期予想 H17.7.1～ H18.6.30
売上高	263,767	89,000	63,840	55,140	93,170	301,150
経常損益	9,820	24,000	400	10,200	400	13,000
当期純損益	7,097	23,300	1,100	10,900	1,300	10,000

第12期は、11月オープン予定の「九十九里店」を含め、数店舗の新規オープンを予定しており、売上高は3億円を超える見通しですが、開業関連費用の負担が少なくないため、経常利益と当期純利益の大幅増加は難しいと予想しています。

第13期以降は、店舗数増加による利益の大幅な拡大が見込めるため、第12期はそのための最後の足固めの時期であると考えています。

資金および借入金の状況

(1) 現金および預金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	第11期 第1四半期 H16.7.1～9.30	第11期 第2四半期 H16.10.1～12.31	第11期 第3四半期 H17.1.1～3.31	第11期 第4四半期 H17.4.1～6.30
現金および預金の増減額		+590	+25,117	1,615	15,887
現金および預金の四半期首残高		9,164	9,754	34,871	33,259
現金および預金の四半期末残高		9,754	34,871	33,259	17,371

(2) 短期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	第11期 第1四半期 H16.7.1～9.30	第11期 第2四半期 H16.10.1～12.31	第11期 第3四半期 H17.1.1～3.31	第11期 第4四半期 H17.4.1～6.30
短期借入金の増減額		20,000	-	-	-
短期借入金の四半期首残高		20,000	-	-	-
短期借入金の四半期末残高		-	-	-	-

(3) 長期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示) 1年以内返済予定額を含みます。

科目	期別	第11期 第1四半期 H16.7.1～9.30	第11期 第2四半期 H16.10.1～12.31	第11期 第3四半期 H17.1.1～3.31	第11期 第4四半期 H17.4.1～6.30
長期借入金の増減額		3,223	+24,991	+2,727	16,073
長期借入金の四半期首残高		242,207	238,984	263,975	266,702
長期借入金の四半期末残高		238,984	263,975	266,702	250,629

借入金の減少は、約定返済によるものです。

今後の事業展開と出店計画について

「九十九里店」の工事が進行中

11号店となる「九十九里店」の建築工事が7月下旬に始まっています。11月下旬のオープンを予定していますが、工事の進捗状況を見定めたくうえで、8月中にオープン日を最終決定します。

他の出店計画

念願であった東京湾岸エリア、および長野県内への出店について、最終的な詰め作業を行っているところです。また、「山中湖店」の売却資金（7月1日に売却、同時にリースバック）を活用して静岡県内に所有直営店の新設を準備中です。

これらにより、来期は、7月1日にオープンした「前橋南店」、建築中の「九十九里店」を含め、5店舗前後の新規出店を実現させる計画です。いずれも、正式決定に至りましたら詳細をお知らせします。

アメリカ視察研修と全社会議を実施

今後の店舗拡大に備え、事業のコンセプトやポリシーを再確認し、社内のモチベーションを高めるため、アメリカのMOTEL視察旅行をスタートさせました。昨年12月の本社スタッフに続き、本年6月には2店舗の支配人を派遣、今後も年2回のペースで継続的に実施する予定です。

また、7月中旬には全店支配人の参加による初の全社会議を開催、今後も毎年実施する予定です。

店舗管理システムの拡充とセキュリティ強化

店舗運營業務を効率化させるため、独自の店舗運営システム（HMS）の改良を進めており、ホームページや携帯電話サイト上の「空室状況」も各店の支配人がリアルタイムに更新できるシステムとしました。

また、セキュリティ強化のため、今秋にはサーバを社外のデータセンターに移設する予定です。

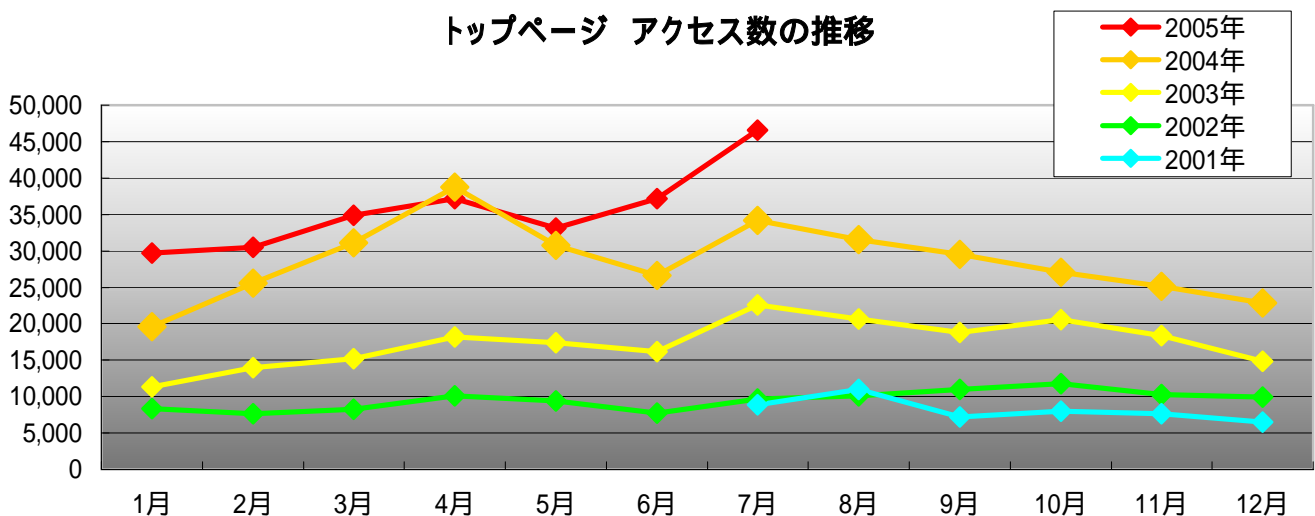
集客アップのため、雑誌広告を実施

既存店の業績が伸び悩んでいるため、春から夏にかけて、旅行雑誌など計6誌に広告を掲載しましたが、引き続き秋の行楽シーズンに向け、高速道路のサービスエリアや道の駅で配布されている「Conomity」というフリーペーパーに広告を掲載し、知名度のアップを図る予定です。

また、健康保険組合や会員制旅行クラブなどとの提携を多角的に進め、ネット予約サイトへの依存度を下げる計画です。

なお、旅籠屋のホームページのアクセス数は、以下のグラフのとおりで、引き続き増加しています。

トップページ アクセス数の推移



以上